

地域で学ぶ 一緒に学ぶ 障害者と学ぶ

みんなの大学校 引地達也



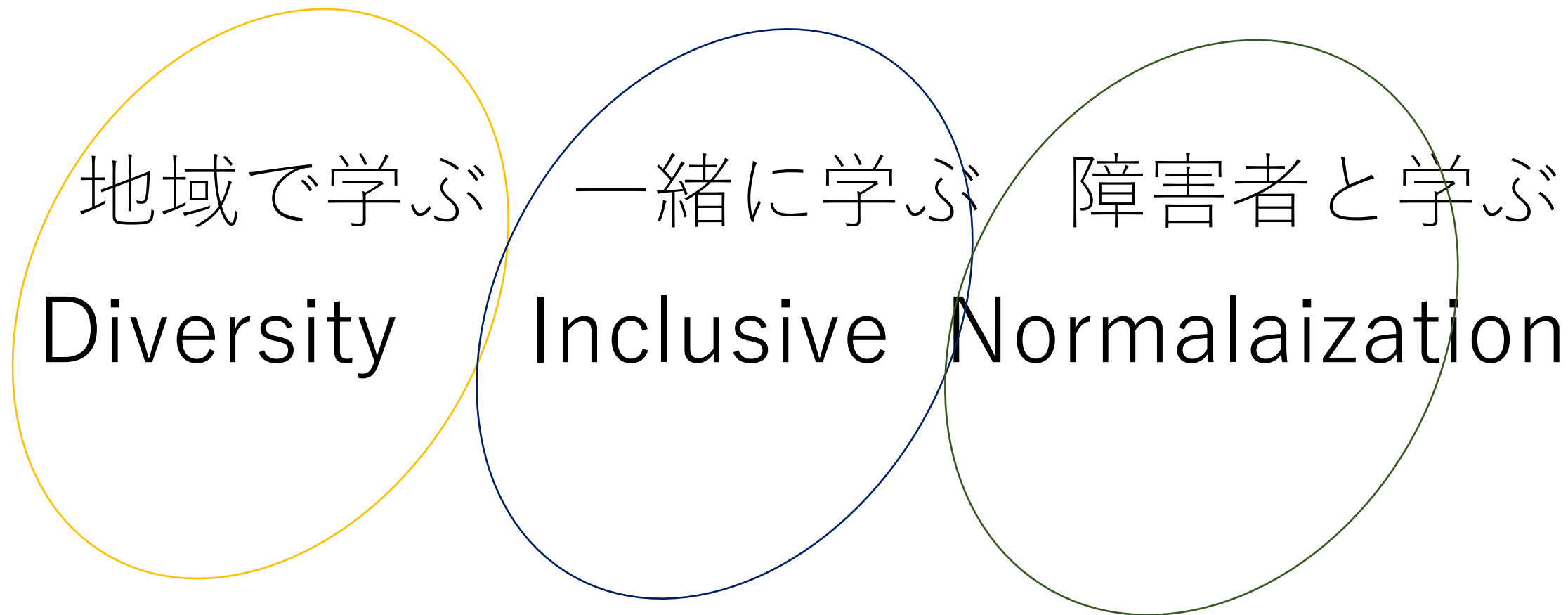
みんなの大学校

Minnano College of Liberalarts

-学び、で君が花開く-

MINDAI

MINNANO COLLEGE OF LIBERAL-ARTS





Diversity
Inclusive
Normalaization

本日の流れ

- 1 はじめに 自己紹介
- 2 「学ぶ」とは何か
- 3 集合型の「学び」のポイント
- 4 ウェブでつながる学び
 - (1) ウェブでつながる学びと社会との関わり
 - (2) おんがくでつながる
 - (3) 今後の展開イメージ
- 5 地域での展開とマインドリセット

1 はじめに 自己紹介

引地達也

1971年8月16日

宮城県仙台市生まれ。

みんなの大学校学長



毎日新聞記者、共同通信記者を経て経営コンサルタントとして、大手金融機関などでコミュニケーションプロジェクトを行なう。東日本大震災発生直後から社会活動中心の仕事に転換し、精神疾患者向けの就労移行支援事業所シャロームネットワークの統括、「学び」を重視した支援事業所として「法定外シャローム大学」を設立、コロナ禍を受けて「みんなの大学校」に変更しウェブでつながる学びを中心に展開。現在、みんなの大学校学長兼就労継続支援B型事業所みんなの大学校大田校管理者
新聞学博士、著書「ケアメディア論」

ケアとは何か

「一人の人格をケアするとは、最も深い意味で、その人が成長すること、自己実現することをたすけることである」

ミルトン・メイヤロフ著、田村真・向野宜之訳『ケアの本質 生きることの意味』

“To care for another person, in the most significant sense, is to help him grow and actualize himself”

Milton Mayeroff *“On Caring”*

2 「学ぶ」とは何か

2 「学ぶ」とは何か

⇒わたしたちの「障害」について

特別支援が必要な人への「学び」

福祉サービス

ゴールが設定
された訓練

教育領域

自分の力に
気づく学習

特別支援が必要な人への「学び」

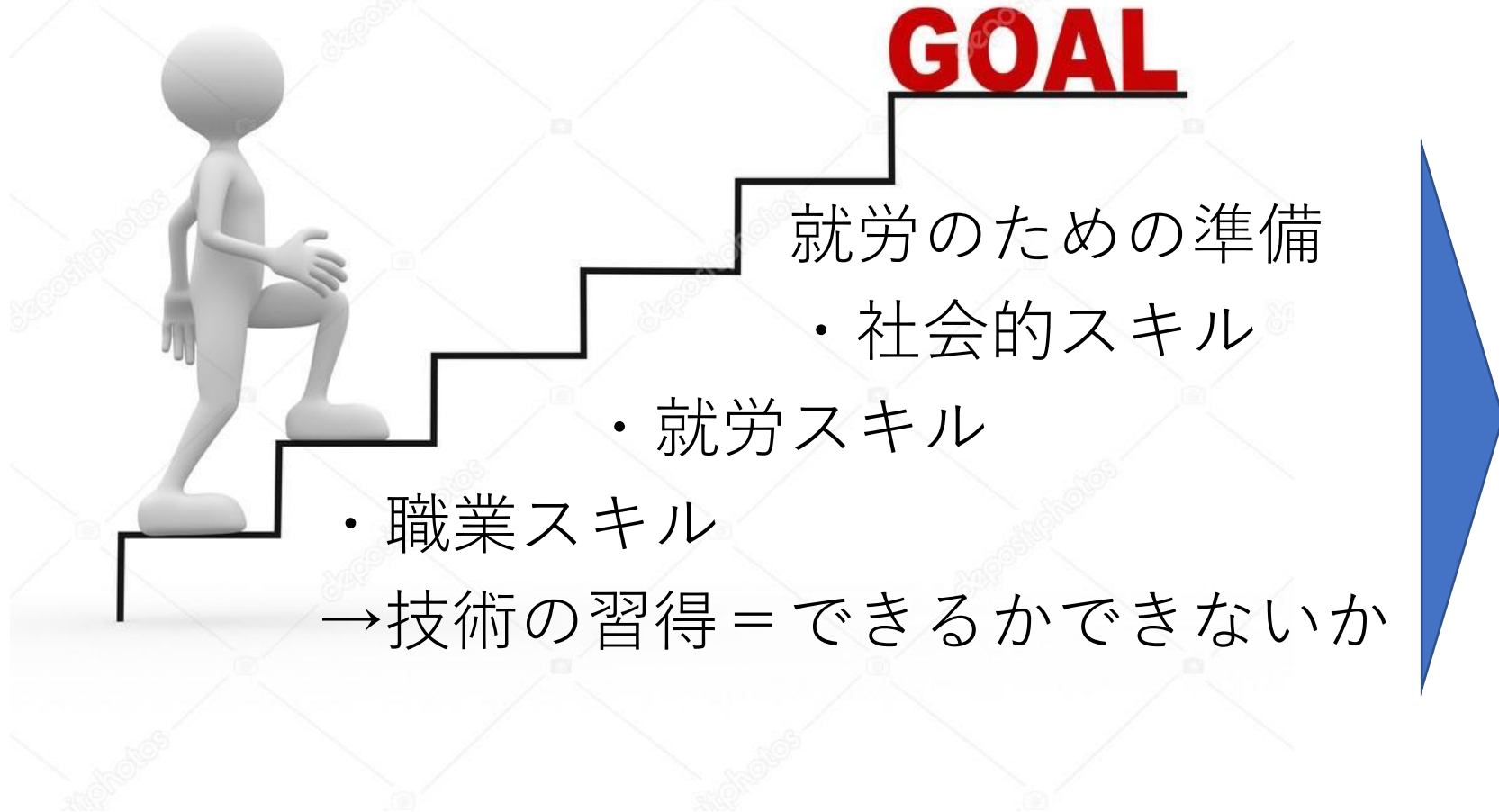
福祉サービス

ゴールが設定
された訓練

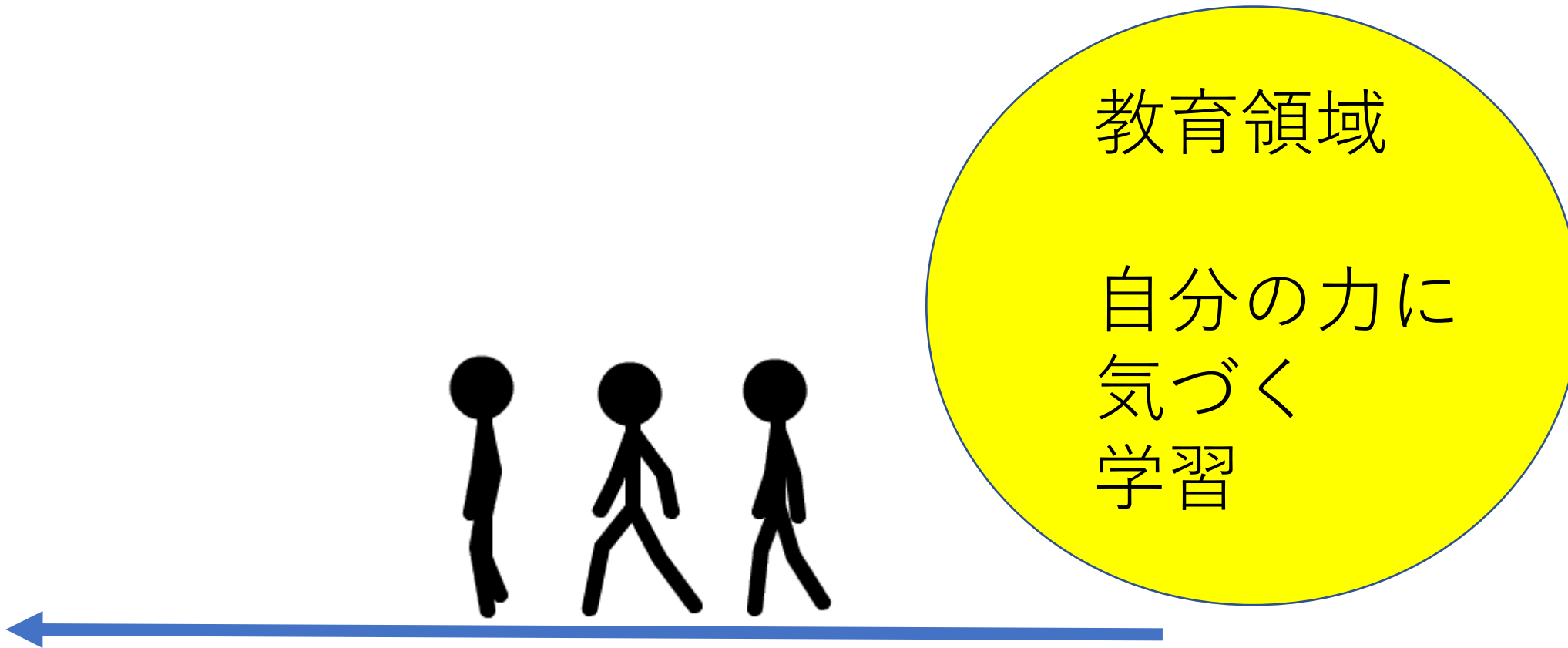


GOAL

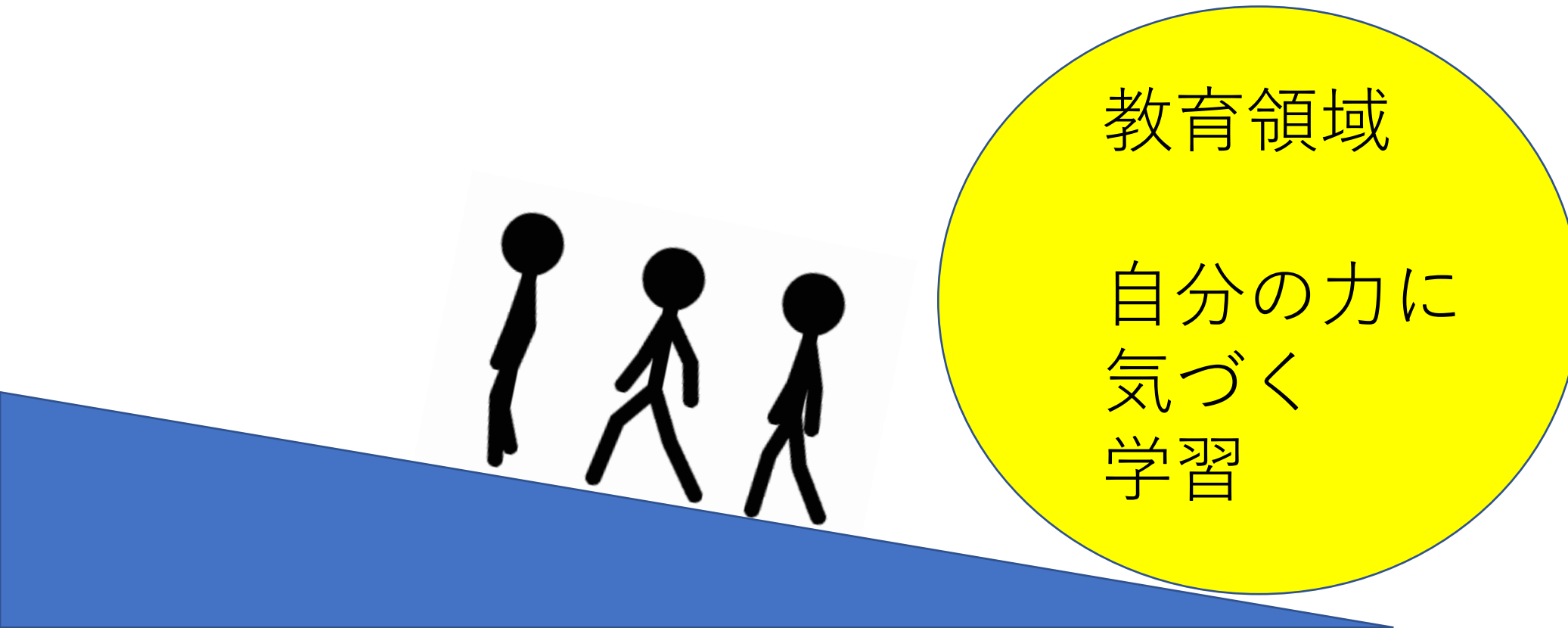
就労移行支援の場合



特別支援が必要な人への「学び」



特別支援が必要な人への「学び」の展開について



特別支援が必要な人への「学び」



学びの「囚われ」

評価に基準を設ける

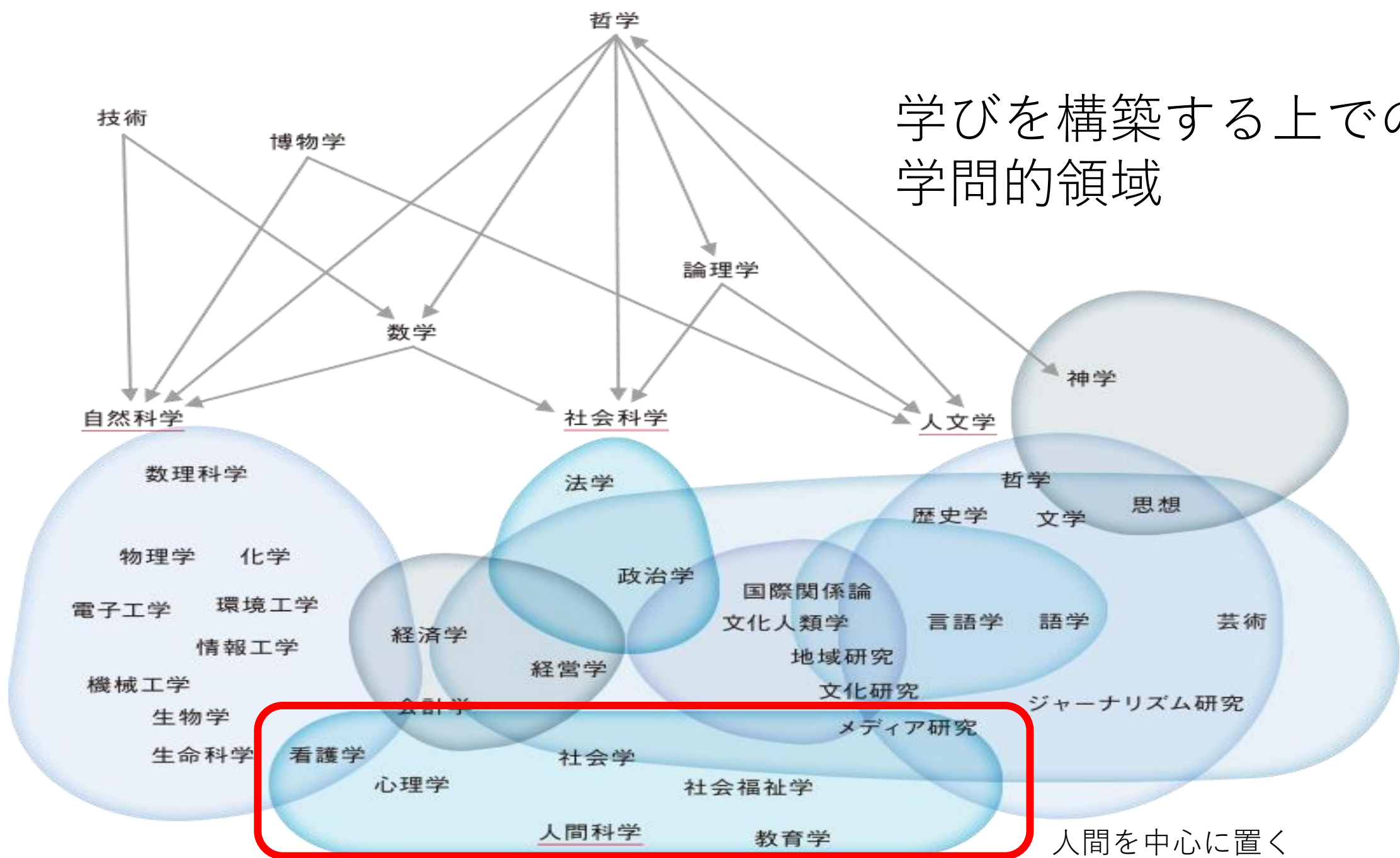
前後・他者と比較をする

「教える」「学ばせる」を前提とする
知識を与えることに重きを置く



当事者への学びへの「障害」が発生

学びを構築する上での
学問的領域



人間を中心に置く

3 集合型の学びのポイント

これまでの経緯

集合型で障がい者向け学びの展開

―埼玉県和光市を拠点に3ステージで地域住民と実践

集合型を各地域へ波及させ展開

―長野県佐久市、松本市、静岡県伊東市、山梨県笛吹市

―浦和大学、農業保全NPOと連携

コロナ禍を受けてオンラインとの組み合わせで実践

―東京都国分寺市と兵庫県西宮市との交流講義

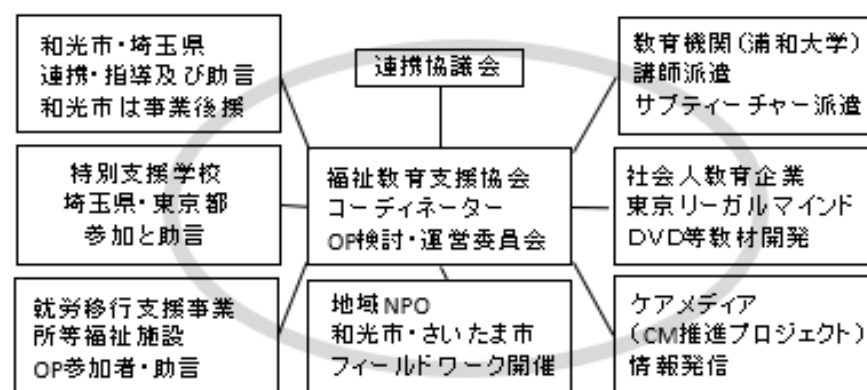
ハイブリットでの学びを各地で展開（継続性の確保）

一般財団法人福祉教育支援協会(埼玉県)における学校から社会への移行期の生涯学習に関する取組

一般財団法人福祉教育支援協会

- ・平成27年、コミュニケーションを重視したプログラムで支援する就労移行支援事業所シャローム所沢（埼玉県所沢市）開設とともに埼玉県所沢市に設立、平成28年に就労移行支援事業所シャローム和光（同和光市）、平成29年に計画相談事業所シャローム新倉（同）を設立
- ・就労支援に関して企業側の啓蒙活動の活発化に向けて、障がい者雇用推進センター（東京都中央区）を設立、障がい者マッチングの活性化に向けて職業紹介事業所シャローム日本橋（同）を設立
- ・平成28年夏から啓蒙媒体及び当事者の発表の場として季刊「ケアメディア」を発行、全国の約50の事業所の広報媒体として機能している（2019年新年号は30000部発行）
- ・就労支援の実践から「学び」の必要な若者等への対応を研究し、法定外シャローム大学（埼玉県和光市）を開設し、学びへのニーズに応える取組を実践している

実施体制



「オープンキャンパス」学習プログラム構成と成果及び今後の展開

基礎教育ステージ

第1回 学んで何だろう 担当・九里秀一郎・浦和大学教授

第2回 メディアを知る、コミュニケーションを学ぶ 担当・引地達也及び歌手サーム等

関わりあいステージ

第3回 見沼たんぽでおにぎり
とゲームワーク NPO法人見沼じゃぶじゃぶラボ

第4回（2日間）和光市魅力発見 担当・和光市民ボランティアグループ等

実践教育ステージ

第5回 モチベーションアップで自分の仕事を発見する 担当・大槻一敬・法定外シャローム大学准教授

第6回 ビジスマナーを知ろう 担当・林真理子・ビジネスマナー講座

基本構成 10時～14時半 1授業50分 1オリエンテーションとゲーム 2講義 昼休憩 3講義 ワーク 4感想と振り返り、修了者には修了書を授与



和光市のフィールドワークで各グループで制作した壁新聞。一例がこちら

写真左・第2回講義では声の音というテーマでピアノコーラスグループも登場し発声についても学習
写真中央・見沼たんぽで「わら投げ」大会も実施
写真右・和光市のフィールドワークでグルメ探検に出発、初対面の参加者も和気あいあいと楽しんだようです

成果

- ・動画コンテンツ化・すべての模様を編集して公開へ
- ・ケアメディア及びソーシャルメディアで発信→啓蒙活動
- ・地域との連携強化
- ・授業の効果を検討し他地域展開へ
- ・コーディネーター視察による学習の最適化に向けた具体化

<今後の展開>

- ・学びに必要な障がい者との連携
- ・動画コンテンツ対応
- ・医療ケアが必要な方々への訪問学習



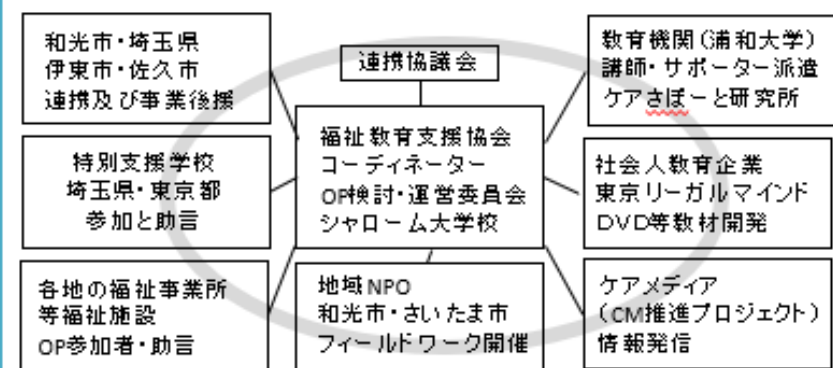
延べ参加人数200人、市民と障がい者の「学びあい」に市民評価→強化・拡充へ

一般財団法人福祉教育支援協会(埼玉県)における学校から社会への移行期の生涯学習に関する取組

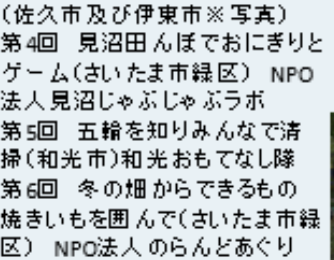
一般財団法人福祉教育支援協会

- ・平成27年に法人設立とともにコミュニケーションを重視したプログラムで支援する就労移行支援事業所シャローム所沢(埼玉県所沢市)開設。平成28年に同和光市、令和元年に同さいたま市にそれぞれ事業所設立。
- ・就労支援に関して企業側の啓蒙活動の活発化に向けて、障がい者雇用推進センター(東京都中央区)設立、障がい者マッチングの活性化に向けて職業紹介事業所シャローム日本橋(同)を設立
- ・平成28年夏から啓蒙媒体として季刊「ケアメディア」を発行、全国の約60事業所の広報媒体として機能(2020年新春号は30000部発行)
- ・就労支援の実践から「学び」の必要な若者等への対応を研究し、シャローム大学校(埼玉県和光市)を開設し、通学型、訪問型、遠隔型で学びへのニーズに応える取組を実践。活動は2019年度の日本特殊教育学会、日本LD学会等で発表。発達支援研究所等の研究機関とも連携

実施体制



「オープンキャンパス」学習プログラム構成と成果

基礎教育ステージ	関わりあいステージ	実践教育ステージ
第1回 生き物って何？ みんなでDNA抽出実験(和光市)  約60人が参加 伊東市での音楽コミュニケーション 	第2-3回 学ぶを楽しむ/体を使って音楽コミュニケーション(佐久市及び伊東市※写真) 第4回 見沼たんぼでおにぎりゲーム(さいたま市緑区) NPO法人見沼じゃぶじゃぶらボ 第5回 五輪を知りみんなで清掃(和光市)和光おもてなし隊 第6回 冬の畑からできるもの焼きいもを囲んで(さいたま市緑区) NPO法人のらんどあぐり 	第7回 ビジネスマナーを学ぶ(和光市)  五輪を知る 見沼たんぼで「わら投げ」大会
基本構成 10時～12時 オリエンテーション⇒授業・講義(アクティブラーニング)⇒感想のシェア ※佐久市・伊東市 10時～14時半 1オリエンテーション 2講義 昼休憩 3講義 ワーク 4感想		

「訪問講義・学習」実施と成果

重度障害者への訪問講義・学習支援	
学習者(学習場所)	学習内容
20代男性(東京都・国立精神神経医療センター)	PCの作曲機能を使っての作曲、SNSでの発信⇒
50代女性(東京都・東部医療センター)	英語、ミシンでの編み物等の創作⇒
20代男性(東京都・自宅)	世界の国、人類の歴史と日本の歴史
40代女性(東京都・自宅)	詩や童話の創作、科学実験等

1回の講義・学習は90-100分、担当者は特別支援学校の元教諭等

成果

●和光市での開催、静岡県伊東市、長野県佐久市での開催を通じて地域での「市民と障がい者」の学びあいの形を提示。今後の地域展開の基礎を構築

●自宅や医療機関にいる重度障害者の学びのニーズからの必要な学習内容の調査・分析、それに基づく教材等

今後の展開

各地域の自治体・市民グループに市民と障がい者が学びあう企画・運営・実施のノウハウ、コンテンツを提供し展開・定着を目指す。

一般財団法人福祉教育支援協会(埼玉県)における学校から社会への移行期の生涯学習に関する取組

一般財団法人福祉教育支援協会

・平成27年に法人設立とともにコミュニケーションを重視したプログラムで支援する就労移行支援事業所シャローム所沢(埼玉県所沢市)開設。平成28年に同和光市、令和元年に同さいたま市にそれぞれ事業所設立。
 ・就労支援の実践から「学び」の必要な若者等への対応を研究し、シャローム大学校(埼玉県和光市)を開設し、通学型、訪問型、遠隔型で学びへのニーズに応える取組を实践。活動は2019年度の日本特殊教育学会、日本LD学会等で発表。発達支援研究所等の研究機関とも連携
 ・令和2年度からはコロナ禍を受けてウェブでどこでもつながれる学びの形を考え「学び」の部分を一一般社団法人化し「みんなの大学校」として運営をスタート

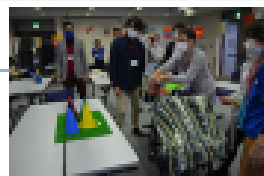
実施体制



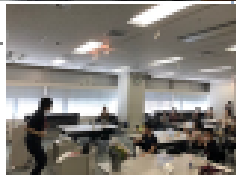
「オープンキャンパス」学習プログラム構成

関わりあいステージ

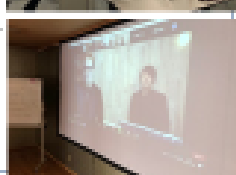
第1回 五輪を知ろう(埼玉県和光市)
和光市おもてなし隊と共催
市民とともに五輪前に「おもてなし」学習



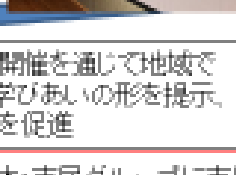
第2回 ソーシャルカレッジ(長野県松本市)
ぶろじゅくとギフト実行委員会と共催
学びと体操とサインシンガーで交流



第3回 チャレンジランニング(さいたま市)
浦和大学と共催
10種目のゲームで大学と要支援者が競争



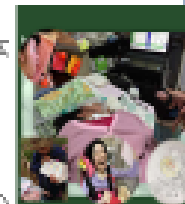
第4回 学び合い(山梨県笛吹市)
福祉事業型専攻科ユニバやまなしと共催
講義とクイズ、ヨガと歌でハイブリット交流



重度障害者フォーラム

取組の連携と啓蒙

第1回 医療的ケア児者の生涯学習を推進するフォーラム
東京都で全国の取組を集約し情報交換とネットワークを目指しハイブリット型で開催
全国から8自治体・団体が発表
啓蒙に向け、ガイドブックを作成・配布⇒全国11団体の取組を紹介、協力呼びかけ

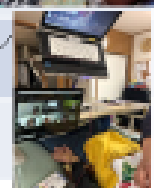
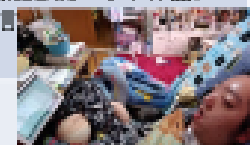


「医療的ケア児者の生涯学習を推進するフォーラム」のハイブリット型開催の様子

「訪問講義・学習」実施と成果

重度障害者への訪問講義・学習支援

学習者(学習場所)	学習内容
20代男性(東京都・国立精神神経医療センター)	PCの作曲機能を使っでの作曲、SNSでの発信
20代男性(埼玉県・自宅)	世界の国、季節の鑑賞
20代男性(東京都・自宅)	世界の国と文化、オンラインで発達心理学
40代女性(東京都・自宅)	詩や童話の創作、科学実験等



1回の講義・学習は90-100分。担当者は特別支援学校の元教諭等

成果

●各地域での「学び」の開催を通じて地域での「市民と障がい者」の学びあいの形を提示、今後は各地域での開催を促進

●自宅や医療機関にいる重度障害者の学びのニーズからの必要な学習内容の調査・分析、それに基づく教材等を開発。重度障害者フォーラムでその具体策を示し、全国での取組を促進する機運を提示

今後の展開

各地域の自治体・市民グループに市民と障がい者が学びあう企画・運営・実施のノウハウ、コンテンツを提供し展開・定着を目指す。

一般社団法人みんなの大学校（東京都国分寺市）

事業名

障害者の生涯学習に向けたウェブ利用の展開と重度障がい者向けの学習支援

主な連携先

国分寺市教育委員会、発達支援研究所

主な対象

知的障害・発達障害・精神障害・重度障害・難病等

事業の趣旨・目的

- ・全国どこでもウェブにより障害者が学びに参加する基礎を構築
- ・市民と障害者が学び合うインクルーシブな学びを実現する枠組みをつくるためのカリキュラム開発、地域の枠組み、プロセスの提示
- ・重度障害者の学びのノウハウ獲得と全国ネットワーク化の推進

事業実施体制

連携委員会構成：発達支援研究所所長（研究者）、福祉事業責任者、国分寺市福祉課長、国分寺市公民館館長、翻訳家、重度障害者学習支援NPO役員、当事者（みんなの大学校学生）
コーディネーター：みんなの大学校学長

学習プログラムの内容

ウェブによる学習機会の提供

前期5-9月「メディア論」「けいざいとくらし」等 合計65講義
後期10-2月「メディア論」「こころのしくみ」等 合計85講義

国分寺市と西宮市の遠隔を結ぶオープンキャンパス

第1回 地域を知り合うコミュニケーション授業 観光協会と連携

第2回 音楽を使っのコミュニケーション授業 音楽家と連携

重度障害者への訪問学習 東京都と埼玉県の在宅者に30回の訪問

第2回医療的ケア児者の生涯学習推進フォーラム

10月29日国立青少年オリンピック記念センターでハイブリット開催

研究の成果と課題

成果：ウェブ講義

→延べ受講者1000人/担当講師17人/
プログラム内容の最適化/講義の進行
や評価方法

オープンキャンパス

→地域リソースとの連携/青年学級ど
うしのつながり方/新規プログラム
訪問学習→就労への発展/大学連携
フォーラム→全国のネットワーク化

課題：・ウェブでのコミュニ
ケーションの特殊性から
の障害特性に応じた対応の
必要性、プログラム設定
・地域リソースとの継続的
なつながりと青年学級の活
性化に向けた新しい取組み
・関係者の発想の柔軟性
・医療・福祉との連携



オープンキャンパス

重度障害者の学習の様様 学習推進フォーラム

その他研究の詳細など

ウェブ型で日常的に学びを提供することで、受講者、講師から発展と改善意見が多く出された。福祉事業所での支援に学びを取り入れてもらうための説明会も実施。その模様は季刊「つなぐ」やHPで公開している。



一般社団法人みんなの大学校（所在地：東京都国分寺市）

事業名

重度障害者の学習支援の展開と地域と指定管理業者による障害者の生涯学習の場づくりの研究事業

主な連携先

国分寺市教育委員会・一般財団法人発達支援研究所・
サントリーパブリシティサービス株式会社

主な対象

知的障害・発達障害・精神障害・重度障害・難病等

事業の趣旨・目的

- ・重度障がい者が全国からウェブにより参加するプログラム構築と重度障がい者自身が主体的に学びを企画し実践し周知
- ・オンラインで全国をつないで学びを継続・発展させる講義開発
- ・指定管理業者が運営する社会教育施設を「インクルーシブな学びの場づくり」の手法を研究・実践を通じた人材育成

事業実施体制

連携委員会構成：発達支援研究所所長（研究者）、福祉事業責任者（訪問看護事業）、国分寺市本多公民館館長、サントリーパブリシティサービス社担当課長、当事者（みんなの大学校学生）、元特別支援学校教員、コーディネーター：みんなの大学校学長

学習プログラムの内容

- 1 重度障がい者向けのオンラインの音楽プログラム
「おんがくでつながろう」をテーマに前期後期全30回の開催予定
- 2 重度障がい者が企画する学びのプログラムの実践
重度障がい者が企画委員になりオープンキャンパスを実施
- 3 オンラインでの学びの場づくりの展開
名古屋、新潟の福祉事業型専攻科や個人希望者への学びの提供
- 4 社会教育施設におけるインクルーシブな学びの場づくり研究と展開
全国の文化施設・社会教育施設を管理運営する指定管理者が障がい者の学びの場としての機能を確保するための研究と実践

今年度の取組状況

- 1 毎週火曜11時から50分、プロのアーティストを講師に実施。障害者通所施設や病院、自宅などから1回につき50名程が参加
- 2 オープンキャンパスはハイブリットで全3回開催予定。のテーマは「みんなでおんがくをつくろう」で参加者が歌詞等を考え制作
- 3 前期後期全30回で毎週木曜11時から50分実施。テーマは「メディア論」。講師は引地達也・みんなの大学校学長
- 4 全国で50の文化施設を指定管理するサントリーパブリシティサービス株式会社と連携し研究会を実施、障がい者が参加しやすい文化事業の検証をしながら実践と研究を実施

その他研究の詳細など

みんなの大学校ホームページ

<https://minnana-daigaku.net/>

ケアメディアホームページ

<https://www.caremedia-site.com>

「おんがくでつながろう」講義ダイジェスト→

<https://youtu.be/xtqvquluTFY>

講義にオンラインで登場した和歌山の「ボズック楽団」



左：オンラインでの「おんがくでつながろう」講義の様
中：当事者がつくる第1回
オープンキャンパス 上：重
度障がい者による企画委員会

受講前での心構え・確認事項

- ・誰もが「水平型」の関係
- ・コミュニケーションが保障される
- ・安全が確保される
- ・「学び」が共有できる

オープンキャンパスのオリエンテーションでの実践例

新しい様式の時代に—

出会いを喜ぼう

みんなで驚こう

みんなで笑おう

「新しい」 ことを感じよう

出会いを喜ぼう

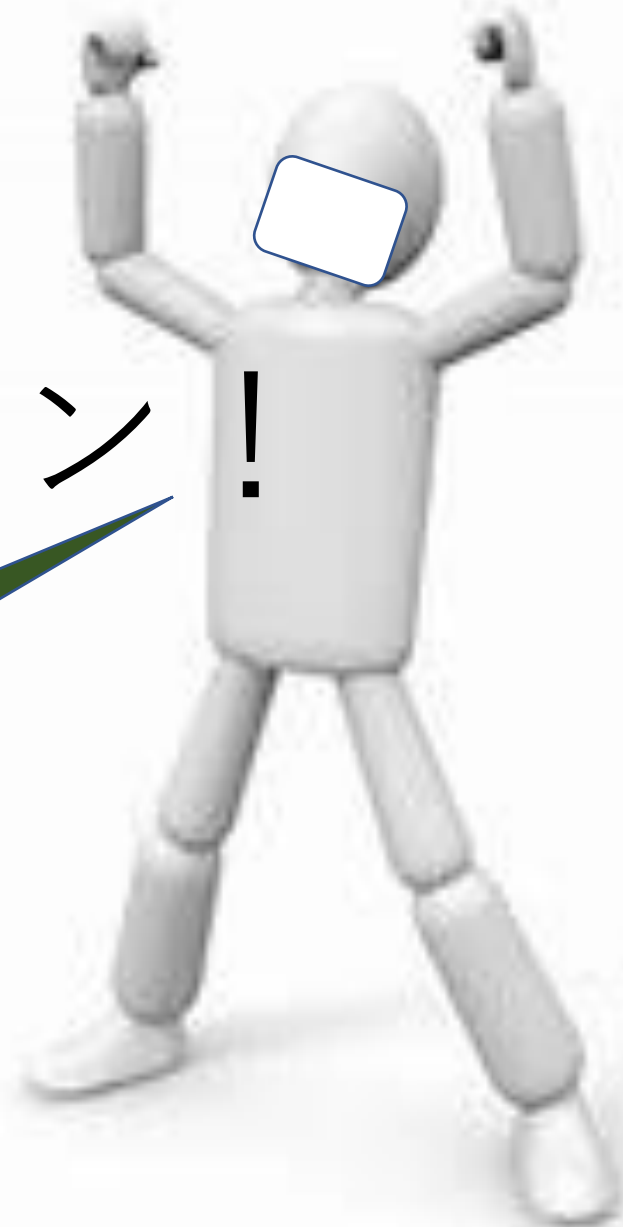


ソーシャル
ディスタンス



みんなで驚こう
オーバーアクション！

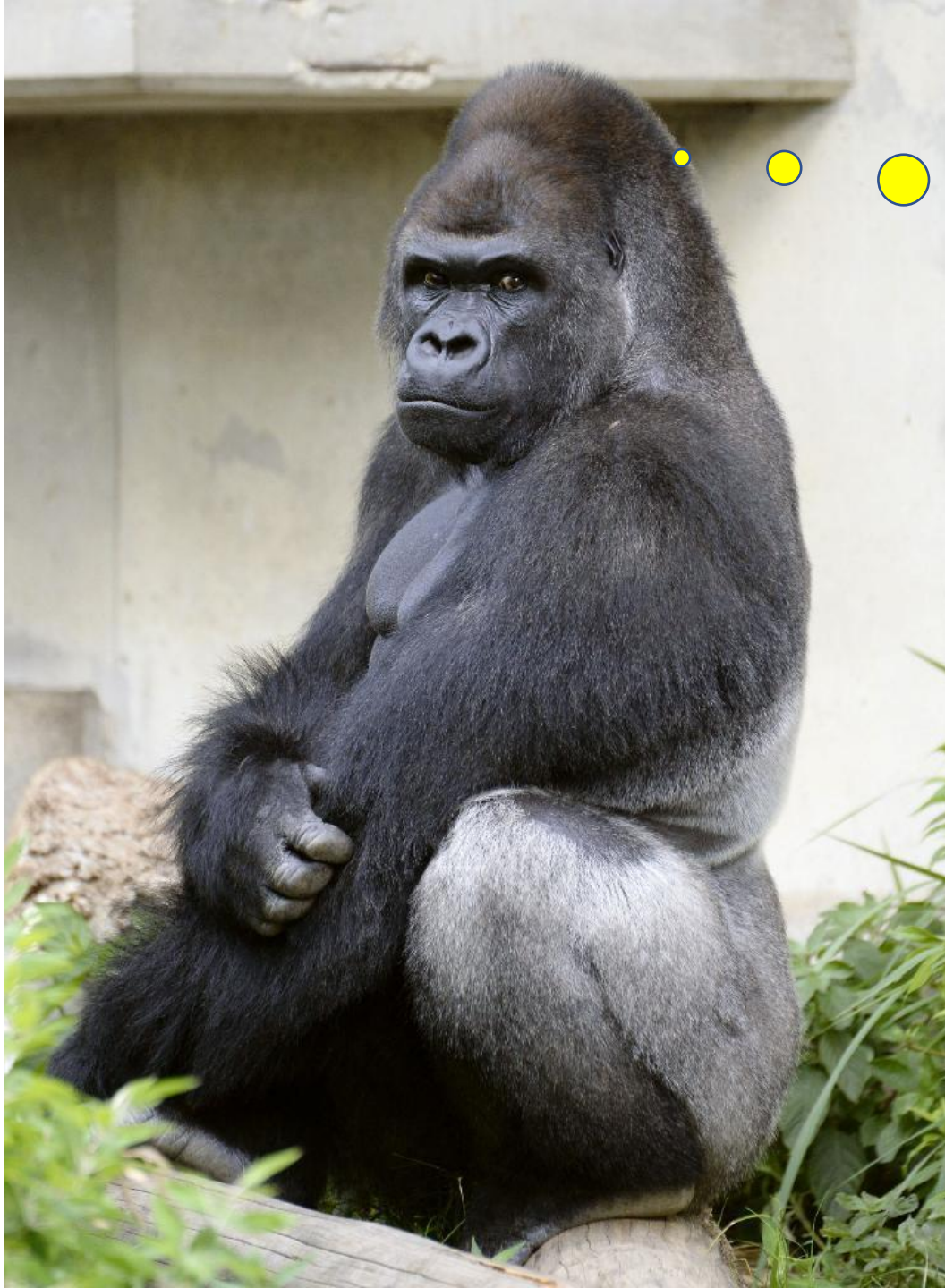
声はひかえめに



みんなで笑おう

笑顔で
コミュニケーション！





NEW!

「新しい」を
感じよう

オープンキャンパスの様子

地域の観光資源をめぐり、壁新聞を作成しました。



学びのリセット（場づくりの考え方）

360度の関係性

すべての人がインクルーシブを体感する

誰を中心にするか

時間軸・場の雰囲気・発言のやりとり

言葉の質を高める

説明の仕方を明瞭に、発言を公正に

アプローチを積極的に

福祉側への呼びかけには手をつかんでいく気持ちで

4 みんなの大学校の取組

(1) ウェブでつながる学びと社会との関わり

学びのDX (Digital Transformation)

DX

デジタル技術の活用によって製品・サービスやビジネスモデルに
変革を目指す (目的)

質的变化

IT化

既存の業務プロセスの効率化を目指す (手段)

量的変化

要支援者の
学びの広がり



みんなの大学校

Minnano College of Liberalarts

-学び、で君が花開く-



みんなの大学校

Minnano College of Liberal Arts
-学び、で君が花開く-

訪問型

医療ケアの必要な人へ
訪問講義+B型就労
ニーズに応じた「学び」の場



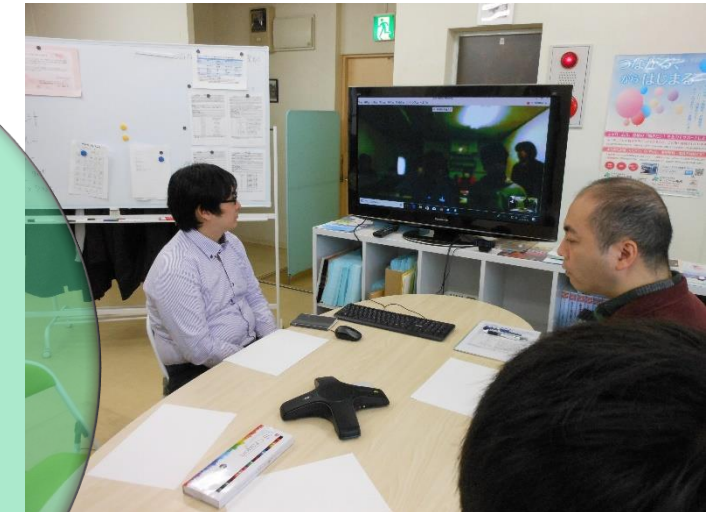
WEB 型

オンラインで参加・聴講
聴講生の参加
オープンキャンパスの実施



連携型

遠隔地をつないでの定期講義
交流も活発化させる
名古屋、新潟、山梨



教育系

特別支援学校卒業生
特別支援学校系の専攻科
通信制高校及びそのOB会
一般大学・短大内の発達障害者
公民館・社会教育・青年学級

社会復帰を考える人

医療系

精神科病院のデイケア
重度障害者の療養施設
医療系の研究機関



みんなの大学校

Minnano College of Liberalarts

-学び、で君が花開く-

ひきこもり・ニート

不登校者

福祉系

福祉型事業専攻科
自立訓練事業所
就労移行支援事業所
就労継続A型・B型事業所
入所型施設

コンテンツ

講義・学び・公開講座
コミュニティ・ライブ
サークル
スクーリングで交流も

企業・団体系

障害者雇用に積極対応する企業
特例子会社
保護者団体（手をつなぐ育成会等）
障害者団体

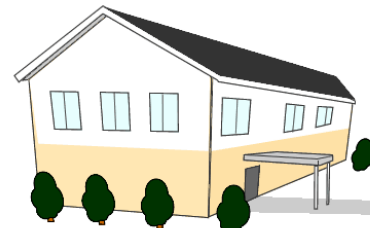
「ケア」を伴う「学び」の場—アクセスとレスポンスの積み重ねで新しい「社会性」を確保
機能：正規学生—講義の受講と単位取得・修了/登録法人及び聴講生—講義の受講
一般向け含む—公開講座の受講、ライブ・イベントへの参加や視聴
公開イベントの入場（チケット制、登録制などの入場管理あり）



学生
学生



登録医療
施設



登録福祉
事業所



聴講生

受講・
レポート

講義・
講座・
イベント

登録

講義・
講座・
イベント

登録

受講

講義・各種
参加・単
位・修了証

講義・各種参加

みんなの大学校

講義系/学び・公開講座

サークル室・学長室

コミュニティ系/ライブ・サークル

→すべて双方向性確保

管理系/登録・履修確認・入試手続き

情報発信系/各種発表

ライブを配信・ウェブでの講義
室をライブハウス仕様にも展開

大学校を全国に
発信、学生のア
ウトプットを
「つなぐ」で発
信



前提

障がい者の「生涯学習」「学び」を考えるにあたり

- ・ 全国の特別支援学校高等部への調査
⇒ 情報リテラシー教育の未整備による不安が浮き彫りに
- 
- ・ 情報リテラシー＝新しいメディアリテラシーの思考が必要
 - ・ メディアを使う観点での「学び」の開拓
 - ・ 学びへの目的－職業に向けた訓練か、自己成長か
→ これらを整理し、新しいメディア社会での学びを検討

重点ポイント

同時間性の確保

- オンデマンドではない
- いま、つながっていることを重要視

双方向性の確保

- 名前を呼びあう、意見をいえる、意見をきける
- 発言したことが、「流されない」安心感

それぞれの「理解」がかけがえのない学び

- 1～100までの幅がある
- 1を理解したらOK、100を理解しても等しくOK

次のステップを共有

- 何をやっていくか、近い未来の約束
- 1学期に15回の講義で単位を取得する連続性

ポイント

関係をつくる一学びの場の醸成

- ・ 名前を呼ぶ、場を共有する
- ・ 評価ではなく、受容と展開
- ・ 水平型でつなぐ
- ・ 結論から導く ⇒ 言葉を引き取る
— キャッチボールの基本



WEB上でもクロストークが出来る環境が整備

リモートの学びに向けてー環境の整備

リモート学習の前提

- ・ 本人の意欲（意欲に向けた方向でもOK）
- ・ 周囲の理解とやる気
- ・ パソコンなどの設備に関する環境整備
- ・ 適切なコンテンツの提供
- ・ 相互コミュニケーションの重要性への理解

→ 「学び」の実践としてテーマを設定し、方法論を考える

みんなの大学校学生委員長の発表

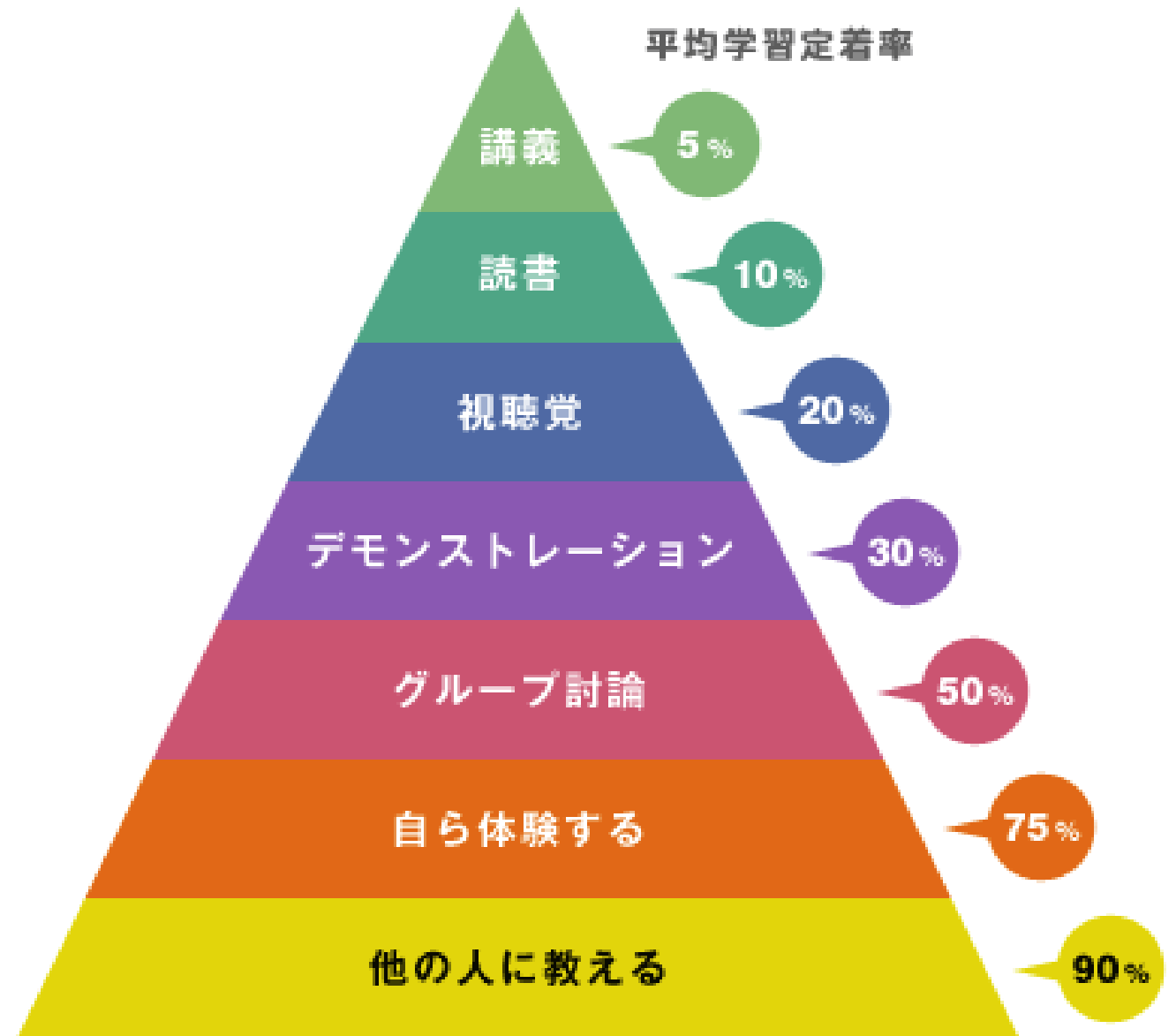
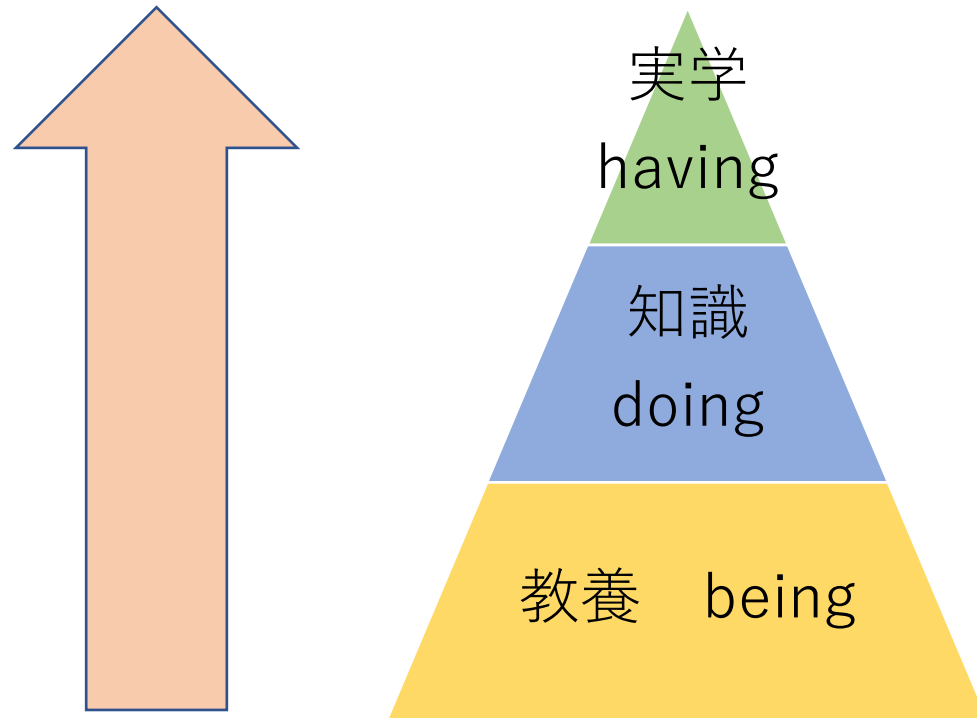
私は一時期、障がい者としてただ、細々と生きて行こう
と
思っていました。落胆して、ある意味では決意さえし
ていた時期もあります。障がい者として、型に押し込め
られる、自分自身でもはめ込んでいく感覚に襲われてい
たのです。

それが、学ぶことにより、自分の人生を生きようと思え
る
ようになりました。学びから、ものごとを見る視点が
客観的、多角的になり、新しい生き方が見えて来たので
す。それは、将来に対する開けた視界であり、この世界
を
生きていきたいと思える感情なのです。

わがままに夢を追う自由という学びではなく、現実を見据えるための、生きていくための学びとしてなのです。学ぶほど現実は厳しく時に残酷であることを気づかされますが、それらを乗り越える力、希望もまた、学びから得られるのだと考えています。

私のこれからの一歩として、社会にどう受け入れてもらうかという課題がある。これまで私は、自身に足りないことを知識で克服しようと背伸びをしてきた。もちろん、知識から得られるものは大きい。しかし、経験をつみ重ねたものには及ばない。

■ プロセスと手法例



ラーニングピラミッド

※出典: The Learning Pyramid. アメリカ National Training Laboratories



みんなの大学校

Minnano College of Liberalarts

- 学び、で君が花開く -

新しいメディアリテラシー
→水平型のコミュニケーション関係の構築

「情報弱者を作らない」強い意志

ポイント

- ・道をつくるのか
- ・靴をはかせるのか



みんなの大学校

Minnano College of Liberalarts

-学び、で君が花開く-

自分を表現するために

メディアは「自分の拡張機能」として利用する
自分ができないことをできるようにする道具
→使い方－靴をはかせる

メディアは「自分を生かしてくれる」環境として考える
自分が社会に受け入れてもらう道具
→かかわり方－道を作ってあげる

しかし、裸足でもOK、あぜ道もOK！！



みんなの大学校の学生

- ・ 正規学生 全科目 月25000円
- ・ 聴講学生 1科目 月7000円
- ・ 就労継続支援サービス登録者
在宅就労+学び 無料

※登録法人 月100000円

成績証明書



学 部	学 科	学 生 区 分	学籍番号	氏 名
教養	社会教養	訪問	200203	松本 勇成
2020年 4月 1日 登録				

科 目	単 位	単位取得	備 考
情報と社会（引地達也）2020年前	4	○	テーマ・世界の国 I
フィールドワーク（2020年前）	2		
情報と社会（引地達也）2020年後	4	○	テーマ・世界の国とことば
フィールドワーク（2020年前）	2		
情報と社会（引地達也）2021年前	4	○	テーマ・ことばをつくる I
フィールドワーク（2021年前）	2		
情報と社会（引地達也）2021年後	4	○	テーマ・創作活動
フィールドワーク（2021年後）	2	○	青森大学と交流
音楽でつながる（引地達也ほか）2022年前	4	○	テーマ・音楽での交流講義
フィールドワーク（2022年前）	2	○	創作活動/おはぎ、だんご他

総取得単位数	24
--------	----

基礎課程必要単位数 62

上記のとおり証明します。

2022年8月17日

みんなの大学校 学長 引 地 達 也



みんなの大学校

修了証書

小林敏彦 Toshihiko Kobayashi

本大学校教養学部社会教養学科基礎課程の認定単位を
すべて取得し、修了審査に合格したことを証する。

2022年3月22日

みんなの大学校 学長 引地達也



4 みんなの大学校の紹介

(2) 音楽でつながる

「おんがくでつながろう」 公開講座のお知らせ（全15回）

だれもが、どこでも学べる、公開講座です。
重度障がいや知的障がい、精神障がいの方や
なかなか家から出られない人など、
好きな場所で一緒に学び合しましょう。

無料です。
参加希望は
070-3166-1616
まで

開催期間：

2022年10月～2023年1月
（毎週火曜午前11時～11時50分）
全15回

講座内容：

毎週プロの音楽家とともに
音楽を通じての学びあいます
ファシリテーター：
引地達也みんなの大学校長

講義はズームを使って
オンラインで行います。
参加者申込いただいた
方・施設にURLを
お知らせいたします。

お気軽にお問合せください。



日時	音楽家
10月4日	サム
10月11日	瀬戸山智之助
10月18日	奈月れい/河野彰
10月25日	中村つよし
11月1日	慈光
11月8日	サム
11月15日	奈月れい/河野彰
11月22日	中村つよし
11月29日	瀬戸山智之助
12月6日	サム
12月13日	サム
12月20日	瀬戸山智之助
1月10日	奈月れい/河野彰
1月17日	中村つよし
1月24日	サム



本事業は2022年度文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」における障害者の生涯学習におけるウェブ利用展開と社会教育リソースの活用研究」の中で行われます。



科目名（副題）	開講年次	単位	担当教員
音楽でつながる	1年	4	引地達也ほか
授業概要			
重慶市にある方それぞれの場所で「学び」として音楽を楽しみ、つながっていくプログラム。毎週、音楽家やミュージシャンが登場し、コミュニケーションが専門分野の引地のファシリテーションのもと、音楽を通じてコミュニケーションで各地とをつないで授業を行う。遠隔にいながら「一緒に」「同じ時間」に音楽を体験していき学びにつなげるのを狙いとする。			
授業目標			
・インターネットを使って映像と音声で結ばれるコミュニケーション方法を理解し正しく利用する ・インターネット上のコミュニケーションのルールやマナーを会得する ・音楽の中でも様々なジャンルがあり、その考え方、表現の仕方の違いがあることを考察する ・音楽を使ってインターネット上で「つながる」こと体験し、自分なりの方法で表現することを考える			
授業方法			
インターネットによるテレビ会議システム「ズーム」を利用し、東京都のみんなの大学校の引地を中心に音楽家の方に登場してもらう。受講者はそれぞれの場所で、出来る範囲で音を含めたり、声を出したり、楽器を演奏したりして、毎回音楽演奏に「加わる」ことを意識する。			
成績評価方法・基準			
出席 70%、授業への参加意欲 20%、発表 10%			
教科書・教材・参考文献 等			
必要な場合はパワーポイント提示。			
質問への対応			
授業中にも可			
授業経過（授業日程に若干の変更）			
項	目	内 容	
1	10・4	オリエンテーション	
2	10・11	弾き語りをたのしむ 1	
3	10・18	歌とギター 1	
4	10・25	歌をたのしもう 1	
5	11・1	シンガーソングライターの魂	
6	11・8	歌とピアノでたのしもう 1	
7	11・15	歌とギター 2	
8	11・22	歌をたのしもう 2	
9	11・29	弾き語りをたのしむ 2	
10	12・6	歌とピアノでたのしもう 2	
11	12・13	歌とピアノでたのしもう 3	
12	12・20	弾き語りをたのしむ 3	
13	1・10	歌とギター 3	
14	1・17	独唱歌について	
15	1・24	講義のまとめ	
履修者へのコメント			
音楽授業は受講者の積極的な気持ちが必要です。遠くにいても「一緒に」の気持ちで盛り上げてください。			

5 みんなの大学校の紹介

(3) 今後の展開イメージ

新しい「学び」の提供
・全国の「学び」と連携
自立訓練等福祉サービス

障がい者雇用の推進
・都内企業と連携

文化施設への啓もう活動
・サントリーパブリシ
ティサービスと共同研究



みんなの大学校

Minnano College of Liberal Arts

-学び、で君が花開く-

就労支援事業所との連携
・ライトハウス大宮/春日部

就労継続支援の可能性追求
・野菜作業/オンライン作業
・制作活動の活発化

ケアメディア
Caremedia

ここにきたら、きっとやさしくなる
ここに繋がったら、きっとかしこくなる

5 地域での展開とマインドリセット

「学ばせる」ではなく「学ぶ」
「楽しませる」ではなく「楽しむ」

対話の形

モノローグ→オープンダイアログ

参考資料1

